

30歳、先輩たちからあなたへ

卒業式の季節になりました。毎年、たくさんの卒業生が自由の森学園からも巣立ち、次のステージに向かいます。ますます未来が不透明化する中で、くじけることなく、したたかに生きていって欲しいと願わずにはいられません。

自由の森学園には生徒が編集し発行するミニコミ誌があります。年数回、読みごたえのある冊子になって発行されています。それらが置かれている図書館前の棚に、12年前の卒業生が30歳になって発行したミニコミ誌が置かれていました。同窓会をきっかけにI君が編集したものでした。

「30歳からのメッセージ・高3の自分にいま会えたらなんて声をかけますか？」

そんなテーマの内容で、同学年の卒業

卒業

はぐくむ

生の声を集めていました。今の高校生に説教がましくメッセージする手法ではなく、時空を超えた当時の自分へのメッセージです。もちろんそれは、昔も今も共通した不安や思いを抱えているだろう在校生への間接的なメッセージとも受け取れます。

「思わぬ方向に人生は進むのでしっかりと考えて」

「お前は視野が狭い。物事を決めつけるな。硬くならず柔らかく考えろ。したい時にしたいことができるよう努力を怠るな。楽な道を選ぶな」

「友人に恵まれているよ」

「今大切なことを大切にね」

「心配無用」

「自分は敵じゃない」

「やって後悔してもいいんじゃない？」

10代ならば」

それぞれの思いが書かれていました。学生時代に「社会人はもっと楽しいよ」と言われたものの、その時はピンとこず、社会に出たらその意味が分かったというFさん。「学校って割と似たような人が集まりがちだけど、そうじゃない。いろいろな人と知り合うことができ」と語るK君。20歳の成人式では高校時代との変化をあまり意識できないかもしれませんが、さすがに30歳になると見えてくるのかもかもしれません。

編集長のI君のメッセージはこういう言葉でした。

「迷ったときは、自分よりも、誰かを励ませる方を選べー」

目先の結果だけではなく、少し長いものさして若者の生き方を見守ることの意味を感じています。

（自由の森学園理事長）

鬼沢真之